

古鎮(Old Town)の都市化：景德鎮

平成 25 年 5 月 10 日受付

李 為*

要 旨

本活動報告のタイトルが示すように、景德鎮の陶磁器は長い間に海上貿易を通してヨーロッパへ中国の優れた知識を与えていた。陶磁器は絹に次いで何世紀もわたりヨーロッパでは唯一の実際に触れることのできる中国についての知識であり、西洋陶磁器の技術やデザインに大きな影響を与えた。しかし、景德鎮は千年後の古鎮として、現在、都市化に向かって進んでいる。景德鎮の街は今、どのような形で見せているのかについて今回の研究目的である。この活動報告では、筆者が今年度で行った調査内容を説明している。

キーワード：古鎮、都市化、景德鎮、磁器、社会調査

1. 調査研究の背景

中国の都市化の進展は都市部だけにとどまらず、社会構造に著しい変化をもたらしたと同時に、多くの千年以上の歴史を持つ古鎮（Old Town）にも波及している。一つの重要な社会変遷の現象として、多くの注目を浴びていると同時に、一体何が都市化なのか、その具体的な概念すらはっきりしていないという現状に直面している。古典的な理論説明では、都市化が人口の都市部に集中し、それによって都市の規模が拡大され、都市の生活様式が変化していると比較的受け入れやすい内容であるが、都市化も人類の生活様式の変遷、すなわち、農村的生活様式から都市的生活様式への変遷を意味している。この意味では、都市化が人口学的意味と社会学的な意義を持っている。すなわち、一つの社会的過程を含んだ概念であると理解することができる。しかし、どのような社会的過程なのかについて、学界では必ずしも共通の認識を有する現状ではない。

1980年代に入ってから中国では市場経済を導入され、経済成長に伴う都市化も加速しつつある。しかし、中国ではしばしば「城鎮化」と「都市化」二つの表現が混在している。中国の都市化とはどのように定義すればよいかについて学界でも賛否両論の状態である。中国の都市化は「城鎮化」なのか、それとも「都市化」なのか、具体的にどのように規定すればよいだろうか。都市化という言葉は西洋のUrbanizationに由来し、すなわち、それを中国語に翻訳する際、城鎮化や都市化の言葉に相当する。実際のところ、英語にはMetropolitanizationが中国語の「城鎮化」に相当すると、筆者は

* 京都産業大学経営学部

思う。しかし、中国の都市化について考える場合、中国の現状に即しながら概念定義を行う必要がある。中国の国家統計局のデータで計算すれば、1998年の668都市の非農業人口は総人口の17.5%しか占めなかった。この水準ではとうてい都市化とは言えない。2003年になると、都市化地域の比率は40%に上り、農業人口の割合も50%以下に下がった。これなら中国の都市化率は50%以上に達していると言えるのはまだ尚早である。すなわち、都市化の生活様式および生活の質も含めて考える必要があるからだ。中国の都市化は、中国の国情に即した人口的な要素（増大）と生活様式の都市化を合わせた内容が含まれる都市化でなければならない。

経済学の研究分野では、都市化を農村人口の都市部への移動するプロセス、あるいは農業人口から非農業人口へ移り変わったプロセスとして捉えている。他方、都市地理学の研究分野では、地域空間における組織の変化に注目し、地域の不断の拡大と発展のプロセスこそ都市化だと指摘されている。社会学の立場では、産業革命によってもたされた農村部から都市への人口移動現象は、いわゆる都市化運動として捉えてきた。日本の経済学研究において、経済基礎の過程におかれた都市化現象および社会文化の過程におかれた都市化現象であると、都市化の内容は二つの側面が含まれているという論点がある。本研究は後者の生活様式の変化を中心に、千年以上の歴史を有する古鎮の都市化とその生活様式の変化に焦点を当てて、古鎮の都市化と生活様式の変化を実地調査することで、社会学的アプローチから都市化による生活様式の変化を継続的に考察する。このような背景で、客観的な視点に立った学術的調査が必要になってきたといえる。

2. 調査概要

2年間の研究計画において、初年度はまず代表的な古鎮（景德鎮、烏鎮）の都市化と生活様式の変遷に関する関係資料の収集を鋭意進めるとともに、これまでの研究を振り返り、効率的な本研究の基本方針を討議、確認し、2年間にわたる研究視点を構築し、古鎮の都市化と生活様式との相関関係に対する含意のあり方を検討する。

2012年度では、2回に渡って江西省の景德鎮と浙江省の呉鎮の調査を実施した。

第1回は2012年4月28日から5月5日までの8日間であった。上海経由で景德鎮と呉鎮の調査で、上海到着後に、まず上海同済大学の訪問で調査協力を依頼した。その後、飛行機で景德鎮への移動。景德鎮に到着後、景德鎮十大陶磁博物館の館長李勝利氏のインタビューと景德鎮佳洋国際文化センターの黄雲鵬センター長のインタビューを経て、つづいて景德鎮精益齋の孔発龍館長のインタビューと御窯廠遺跡博物館のインタビューを実施した。その後、景德鎮市内住宅区の調査と、景德鎮市内から60キロほど離れた瑶里古鎮の民宅を訪ね、ヒヤリングを実施した。景德鎮からいったん上海に戻り、上海から新幹線で35分程度蘇州へ移動、交通不便のため、蘇州から呉鎮までタクシーで3時間半かかった。浙江省呉鎮居民委員会へのインタビューと蘇州平江路居民区住民のインタビューを実施した。日帰りで深夜上海に戻り、翌日、上海同済大学の協力で東台路住宅区への調査と豫園住宅区への調査を行った。5日午前、上海同済大学の担当者との打ち合わせと今後の調査

協力について協議したうえ、午後、浦東国際空港へ帰途に立った。

第2回は2013年2月23日から3月2日までの8日間であった。今回は北京経由で景德鎮に到着、前回と同じように、景德鎮十大陶磁博物館の館長李勝利氏のインタビューと景德鎮佳洋国際文化センターの黄雲鵬センター長のインタビューを経て、つづいて景德鎮精益斉の孔発龍館長のインタビューと御窯廠遺跡博物館のインタビューを実施した。今回はインタビューだけではなく、貴重な資料も入手した。その後、珠山路に隣接している古街（明代から繁栄してきた古い町）への調査と、景德鎮蓮社路集合住宅区の調査を実施した。景德鎮の調査を終え、北京への移動。北京にある中国社会科学院の協力で瀋家園住宅街のインタビュー調査と景德鎮の北京駐在事務所のインタビューを実施した。さらに中国国家博物館と北京首都博物館では多くの景德鎮の実物陶芸品を扱っているため、両博物館の資料室へ資料調査と館長のインタビューを実施した。北京の古楼大街付近では元代の古陶磁が発見されたことがあって、その近くに隣接している十刹海住宅街の調査を実施した。3月2日午前、中国社会科学院の担当者との打ち合わせと今後の調査協力について協議した後、北京国際空港へ帰途に立った。

2012年2回の調査を通して、いくつかの点を明らかにしたが、紙面の関係で詳細の部分を割愛しなければならない。

3. 景德鎮と磁器

景德鎮は江西省の北部に位置し、山並に抱かれている。気候は比較的暖かい、周囲の山脈では質の良い陶土と燃料が豊富にとれる。世界的に有名な陶土の名（Kaolin）の由来する高嶺村は、東方向わずか60キロあまりにある。昔から陶磁に利する風土があると言われてきた。景德鎮という町は磁器との深い関係は広く知られている。北宋の真宗皇帝趙恒（景德年間1004年—1007年）は、役人を派遣し、宮廷用磁器の製造監督を担当する監督官に当らせ、製造した製品には「景德」と銘を打たせると同時に、陶務管理役所を設け、すべての磁器製造を管轄するようになった。それまで呼ばれていた昌南鎮は景德鎮と改称された。皇帝の年号で命名した町は景德鎮だけである。今日まで、景德鎮という名称はすでに一千年以上用いられてきたが、その陶芸は時代ごとに輝かしいエピソードが残っている。唐代の模造玉器、宋代の影青磁、元代の青花（染付）磁と釉里紅、明と清代のなまめかしい色釉磁といろどりの釉上彩磁などがその代表的な陶芸である。1949年以後の景德鎮磁器は、伝統的風格を守り続けてきただけでなく、現代陶芸の粋も取り入れ、多くの作品を世に送り出している。今は市内の蓮社路に多くの工房と陶芸屋が立ち並んでいる。

景德鎮の青花や色釉磁が17世紀に入ってヨーロッパへ輸出され、1602年にオランダ東インド会社が創立されると、逸早く中国の市場に伸ばされた。当時のヨーロッパではようやくマヨリカ焼のような軟陶が行われている程度で、景德鎮の青花や色釉磁の磁器のような高温焼成のかたく焼きしまった磁器は、はじめてみるどころであり、たちまちにしてヨーロッパの賞賛の的となり、貴族たちは争って手に入れた。しかし、景德鎮磁器とはいえ、官窯ではなく民窯である。また当時ヨーロッパの上流

社会に流行していたものでは、中国陶磁の写しから、かなり文様を折衷したものまでいろんな種類があった。景德鎮の磁器は、すなわちその歴史の古さ、陶芸の深さ、種目の多さ、装飾の豊富さで世界に名を知らされている。しかし、その文様の意味づけと生活様式の関連について、意外に知られていないようである。

磁器の都と称する景德鎮の歴史的をより理解するために、御窯廠遺跡博物館、景德鎮十大陶磁博物館、景德鎮佳洋国際文化センター、精益斎の四つの私営博物館の資料調査とヒヤリングを行った。御窯廠遺跡博物館は官窯遺跡の跡地に建てられた。それに対して、景德鎮十大陶磁博物館は1949年以降から1990年代までの陶磁を扱っている。特に文化大革命時期の陶磁を中心に展示しながら、景德鎮の旧国営工場の歴史を紹介している。景德鎮佳洋国際文化センターは、古代陶磁の陶芸（釉薬の配合、制作技法）を研究することで、古代陶芸の再現に努めている。精益斎は古代と近代陶磁の展示、現代の名工作を幅広く展示されているが、陶芸職人の交流の場として、工房も提供している。

四つの私営博物館の共通点は、景德鎮政府からの資金援助を一切受けていないことと、経営者が磁器文化への愛着と芸術をマネジメントしているところにある。景德鎮ではこの四つの私営博物館のほか、景德鎮市政府が所管している景德鎮陶磁館、陶磁民俗博物館、中国陶磁博物館（国際陶磁博覧会の会場）などもある。次年度の調査対象として実施する。

4. 景德鎮の都市化現状と目標

中国で1970年代末から始めた経済の改革・開放政策によって、景德鎮の都市化に新たな風を吹き込んでいる。1978年～2002年の都市人口は24.3%から46%まで上昇し、2010年に48.6%、昨年よりすでに50%以上達している。現在、景德鎮市の総人口は約160万人、郷と鎮の区画38地域、うち鎮編成は25地域である。すなわち、景德鎮は伝統的な生産型都市から生活居住型都市へ転換しつつある。

2007年の統計データによると、第1次産業は9.3%、第2次産業は56.2%、第3次産業は34.5%、2次産業が大きなウエートに占めている。対外貿易総額は2000年の3642万ドルから、2009年の48133万ドルまで伸び、陶磁は大きなウエートに占めている。現在、市内の一人当たりの住宅面積は34.17m²、産業用地は一人当たり21.97m²、道路と広場は一人当たり14.86m²、公共緑地は一人当たり14.65m²となっている。2015年の都市人口は60%に、2030年は90%に達すると景德鎮市政府の見解である。2012年度の時点で生活保護を受けている人数は都市人口の約9%である。都市化の課題として、老朽化が進んでいる市内の住宅環境とインフラ整備である。都市化の目標として次の表に示しているように、2010年のGDP一人当たりの2万6千元から、2030年のGDP一人当たり16万元の6倍伸びを目標としている。

5. 次年度の調査ポイント

初年度の現地調査を通し、現地の方々と接する機会が得られ、予想以上の成果が得られた。し

2030 年まで都市化の主要指標

指 標	単 位	2010 年	2015 年	2020 年	2030 年
GDP 総額	億元	445	900	1800	3050
1 人当たり GDP	元／人	26500	50000	100000	160000
サービス業の増加幅 (GDP に占める割合)	%	33	36	40	46
工業用地の増加幅	億元／km ²	7	10	14	20
人口の増加	万人	160	170	177	190

出典：筆者の景德鎮市政府に対するインタビューによる整理，2015 年以降の数字は景德鎮の社会発展目標となっている。

かし、海外出張はあまり長く滞在できないという制限があって、現地での資料整理ができなくて、多くの資料を持って帰って整理する必要がある。そのため、荷物の重さの超過に苦労している。次年度の調査計画も 2 回予定しているが、磁器に描かれている文様と社会生活との関連およびその文様に反映されている社会的変遷の特徴を中心に、調査を進める予定である。

Urbanization of Old Town in China : Jingdezhen

Wei LEE

Abstract

In this report, as the title of the Urbanization of Old Town in China, Jingdezhen ceramics had been shipped to Europe since a long time providing a significant knowledge of the China. Ceramics represented -after silk- for many centuries the only tangible knowledge of the China in Europe and deeply influenced technique and design of European ceramics.

However, after a thousand years, Jingdezhen as the Old Town is advancing toward the urbanization now. City of Jingdezhen is the purpose of my research about what to show me in any form now. In this report, I have a description of what was also investigated twice in this year.

Keywords : Old Town, Urbanization, Jingdezhen, Ceramics, Social research